

続・続・二上山に咲く花々 4

アオモジ (青文字)

クスノキ科クロモジ属

写真 澤木仁さん

花言葉は「友人が多い」

早春、山肌の一角が黄白色に見え、近寄るとさわやかな香りが漂っています。アオモジがたくさんの花を開いているのです。

香りがいいので仲間のクロモジと共に和菓子の爪楊枝の材料とされます。

枝が緑色なのでこの名に。雌雄異株。



続・続・二上山に咲く花々 5

ナガバモミジイチゴ (長葉紅葉莓)

バラ科キイチゴ属 花期は3月

写真は澤木仁さん

野山で最も普通に見かける木いちご。黄色くみのる実は甘い。葉がモミジのように裂けるのでこの名に。茎には鋭いトゲがあり、藪漕ぎをする者にとってはなかなかの難敵。同属のモミジイチゴが本州の東日本に、本種が近畿以西にと別れて分布しています。



返り花(帰り花)

二上山でも、各所で返り咲き(狂い咲き)の花に出会います。主にモチツツジなどツツジ類が多いのですが、サクラやスミレなども咲いています。

狂い咲きともいわれる自然の現象ですが、最近の気温の乱高下で季節を勘違いしたこともあるでしょうが、2度にわたる台風で傷みつけられ、植物が危機感を募らせたことも一因ではないでしょうか。俳句の世界では冬の季語。

山の溜息かも知れず返り花 鷹羽狩行

12月二上山で→



紅葉の湖東の寺から近江八幡へ

12月4日、健生会友の会の大和高田市地域3支部合同の日帰り旅行「晩秋の湖東と近江八幡を訪ねる旅」が行なわれました。

友の会事務局2名を含む88名がバス2台で滋賀県へ。

向川高田市議の忍者についてのうん蓄を聴きながら伊賀、甲賀を抜け、湖東三山のうち金剛輪寺と西明寺に。

苔・紅葉・不断桜

両寺共、由緒ある古刹ですが、花と紅葉でつとに有名。参加者たちは紅葉、黄葉に染まる参道、堂宇、庭園などを連れ立って散策、深緑の苔、様々な色



↑西明寺で

合いのモミジ、その中で静かに咲く不断桜、そして足元を飾るマンリョウやヤブコウジ(別名十両)を楽しみながら歩きました。

不断桜はサトザクラの仲間

平安時代以来の品種育成によって200種以上のサクラの園芸品種が作られたが、これらを総称してサトザクラ(里桜)と呼び(図鑑・日本の樹木)、フダンザクラ(不断桜)もその仲間。

春と秋に開花し、一年中花や葉が絶えないのでこの名を付けられ、三重県鈴鹿市の白子観音寺のものは天然記念物との事。



↑フダンザクラ

近江八幡のしっとりとした街並み

散策後、西明寺門前の“一休庵”で昼食。一服して近江八幡へと移動。

雨もよいの空を気にしながら、三々五々、情緒あふれる街並みを歩きました。

かつての城下町、そして近江商人の町。大きな商家が立ち並び、昔の繁栄ぶりをうかがわせるながらも、落ち着いた雰囲気街並み、

時代劇のロケに使われる八幡堀、名産の和菓子や工芸品。一方でレトロな洋風建造物やバウムクーヘンでも有名。もう一度、時間をかけて歩き回りたい街でした。

↓記事とは関係ありません。去年の山歩きク忘年会

